

〔禁中恒例年中行事六月〕十六日 嘉定 是は七嘉定とてむかし菓子七色清所より上る、黒米一升六合宛錫盛にもりて院中親王門跡方堂上方所々江御祝儀下さる、也、

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年六月十六日、かつう、女ゐんの御所、女御の御かた、宮の御かた、大御ちの人より参る、この御所よりも、いつものごとく女ゐんの御所、御所々々、女中、おとこたち、下々までたぶ、おとこたちしこうなり、のち、だいの物いで、くもじ参る、御ひし、也、めでたし、

〔時慶卿記〕慶長八年六月十五日、明日嘉通ノ御觸アリ、かしこまりてうけ給候ぬと申入、十六日、公宴へ所勞御理申入不參、但嘉定ノ料ヲバ給、嘉定進上ノ所々別ニ記、女院御所、同女御殿へ、饅頭一ツ、御袋へ初而進入、金團、大聖寺殿、同女院御所之衆別ニ記、大聖寺殿衆同、予ハ食不成故ニ、少祝計也、多阿、御城、孝藏、主内衆不殘遣、九年六月十六日、嘉通如例、女院御所、女御殿、大聖寺殿、御袋

へ進上候、此方へモ女御殿ヨリ、少納言兩人ニ給、御所ニハ、將軍徳川家康御參内ノ有増ニテ、嘉通無之、女院御所ヨリ、嘉通三人ニ給、予ニハ御酒ナリ、則半分飲其儘醉臥、十年六月十五日、明日嘉通ノ料ヲ、女御殿ヨリ拜領、少納言へモ初而給、十六日、嘉通如例、御所々々、其外下々へモ、調合飯籠

鮮五切ツ、女院御所、女御殿、大聖寺殿、政所殿へ進上、其外ハ金團也、但砂糖ハ當時忌ミ物ニテ不加、女院御所ヨリハ、御酒内儀へ鮎鮮五ク、金丸へ串鮑認テ給、御所ノ御嘉定ハ各不被召、如何可尋之、去年ハ料ヲ給處、當年ハ各モ無其沙汰ト云々、

〔大江俊矩公私雜日記〕文化三年六月十六日壬辰、嘉祥御盃已刻參勤、助功常顯、俊常等四人相揃後、屆議奏卿、包物各持參、互相振廻如例、略今日持參包物、如近年黃青白饅頭十六也、

文政十一年六月十三日辛巳、嘉祥御盃長橋回文到來、如例加奉返却、留在往來、嘉祥米申出山本和門、印形差遣、如例年拜領了、十六日甲申、嘉祥御盃已刻參朝、一膳三膳四膳同之、相揃ト屆議奏卿、當番持參、池園包菓子持參、相振廻如例、一午、半刻過御催未刻過有召、公卿三人、鷲尾前大納言、勘解由小路宰